

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

シルバーと若者が農で大活躍！農業活性化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

犬山市

3 地域再生計画の区域

犬山市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

シルバー人材センターの会員は、近年減少しているが、今後安定的に自立した運営基盤を強化していくためには、会員の増加が必須である。

本市の農業は耕作者の高齢化、担い手不足という課題を抱えている。耕作放棄地は全体の 14.3%に及び、県平均（11.7%）より高く、高齢化に伴い耕作ができなくなる農家も潜在的に多数存在する。

4-2 地方創生として目指す将来像

シルバー人材センターが農業に参入することで、高齢者の安定した就業機会の確保とともに、市内農家の人手不足による営農継続の困難化をセンターが組織的かつ安定的に支援することに繋がる。また、センター自らが栽培する農作物による収入を得ることで、自主事業としての農業運営を目指す。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成 28 年度 増加分 (1 年目)	平成 29 年度 増加分 (2 年目)	平成 30 年度 増加分 (3 年目)
農作物の収穫量 (kg)	0kg	0kg	100kg	6,000kg
耕作・販売に従事 した会員数 (人)	0 人	0 人	20 人	30 人
高齢農家への支 援件数 (件)	0 件	0 件	0 件	3 件
農作物の販売額 (円)	0 円	0 円	0 円	11,775,000 円

	平成 31 年度 増加分 (4 年目)	平成 32 年度 増加分 (5 年目)	KPI 増加分の累計
農作物の収穫量 (kg)	8,000kg	9,600kg	23,700kg
耕作・販売に従事 した会員数 (人)	40 人	50 人	130 人
高齢農家への支 援件数 (件)	5 件	7 件	15 件
農作物の販売額 (円)	15,637,200 円	18,840,000 円	46,252,200 円

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

シルバー人材センターが農業経営を行うための「農の拠点」となる農業施設を整備し、農作物を栽培する。農業に必要な知識・技術の習得の場、新規・若手就農者の育成の場として活用する。

センター会員及び若手就農者は、市内の高齢農家で農作業の支援をしたり、耕作放棄地を活用して営農する。

センターは、農作物の付加価値を高めるために、JA、商工会議所、市内飲食店など外部機関と連携し、ブランド化の研究を行う。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生拠点整備交付金（内閣府）【A3007】

① 事業主体

犬山市

② 事業の名称：シルバーと若者が農で大活躍！農業活性化プロジェクト

③ 事業の内容

本プロジェクトは、シルバー人材センターが農業を行うための「農の拠点」を整備し、農業に必要な知識・技術を習得する場として、アイメック農法によるミニトマトの栽培を行う。収穫したミニトマトは市場に出し、収益を得る。また、センターは、新規・若手就農希望者を育成し、市内の高齢農家で農作業の支援をしたり、耕作放棄地を活用して営農することで、農業の再生、雇用の創出を促進する。

さらに、センターは、農作物の付加価値を高めるために、JA、商工会議所、市内飲食店など外部機関と連携し、ブランド化の研究を行う。

付加価値を高めることで収益の向上を図るとともに、高齢者のやりがい・生きがいの創出に寄与する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

アイメック農法により高品質なミニトマトを安定的に収穫することができるため、朝市、学校給食、観光地の直売所をはじめ、市場での販路を開拓し販売することで事業収入増。

また、シルバー人材センターが高齢農家のお手伝い事業を実施することにより、事業収入増。

センターの収入増に伴い、犬山市から支出する補助金の軽減が図られ、運営費における市への依存度を抑制する。

【官民協働】

センターは、農業による経営的自立ができるよう、トマトの品質・収穫量の向上を目指していく。また、シルバー人材センター同士のネットワークを活用した販路の開拓・拡充や、JA、商工会議所、市内飲食店など外部機関との連携による営農指導や販路拡充に対する協力体制を強化する。あわせて、農作物の付加価値を高めるため、各機関と連携しながらブランド化・6次産業化について、より収益を生み出すための研究を行う。

市は、センターの経営的自立を目的として農の拠点施設整備を支援する。また、耕作放棄地化を防ぐため、農地の貸出や高齢農家の支援先の調整を実施する。

【政策間連携】

センターが高齢農家の支援や農の拠点づくりを進めることで、高齢者の活躍の機会や雇用を創出するとともに、若者就農支援を促進する。技術を習得した若者は、耕作放棄地などの貸与を受けて耕作を行うなど、耕作放棄地の利活用に寄与する。トマトの高品質化により、ブランド化につなげる。また、市内幼稚園や小学校との連携により、地産地消の取組み推進にも寄与する。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成 28 年 度 (1 年目)	平成 29 年 度 (2 年目)	平成 30 年 度 (3 年目)	平成 31 年 度 (4 年目)	平成 32 年 度 (5 年目)	KPI 増加 分の累計
農作物の収穫 量 (kg)	0kg	0kg	100kg	6,000kg	7,000kg	8,000kg	21,100kg
耕作・販売に従 事した会員数 (人)	0 人	0 人	20 人	30 人	40 人	50 人	140 人
高齢農家への 支援件数 (件)	0 件	0 件	0 件	3 件	5 件	7 件	15 件

⑥ 評価の方法、時期及び体制

2月末時点のKPI達成状況を企画広報課がとりまとめ、総合戦略策定に際して設置した「いいね！いぬやま総合戦略推進会議の委員（学識経験者、関係団体の職員、住民代表等）及び市の最上位計画である犬山市総合計画の審議会委員を中心とした外部組織や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

⑦ 交付対象事業に要する経費

総事業費 59,293 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日

(2) 地方創生推進交付金（内閣府）【A3007】

① 事業主体

犬山市

② 事業の名称：「農」あるシルバーは地域を救う！若者と共に農業で大活躍プロジェクト

③ 事業の内容

農業に必要な知識・技術を習得する場としてシルバー人材センターが整備した「農の拠点」で、高齢者でも低負担で耕作でき、高品質で一定の収穫量を維持できるアイメック農法によるミニトマトの栽培を行う。収穫したミニトマトの販売により収益を得る。

販路開拓については、市内の子ども未来園や小中学校、朝市、JAとの連携のほか、スーパーや小売店、商工会議所や観光協会と連携した市内飲食店への納入について、調整を進める。また、規格外品の活用方法についても、市内企業と連携して検討を進める。また、地方創生にかかる包括連携協定を締結した地域の金融機関を活用して、販路・ブランド化両面から情報支援を得る。付加価値を高めることで収益の向上を図るとともに、高齢者のやりがい・生きがいのさらなる醸成につなげる。

将来的には年間約10トンの収穫により1,800万円ほどの収入を得ることで、農業事業に関する経費を賄える水準を目指す。また、「農の拠点」を新規・若手就農希望者の研修の場として活用することで、地域の担い手の新たな確保や高齢者と若者の交流を促進する。加えて、シルバ

一による高齢農家への農作業支援の充実につなげていく。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

農の拠点となるビニルハウスでアイメック農法で栽培するミニトマトの販売による収益、高齢農家への支援実施による収益により、ビニルハウスの維持管理費及び会員や職員の人件費を賄うことで、事業の自立を目指す。

また、現在市が支出している職員分人件費補助を削減し、市の補助金への依存度を抑制する。

【官民協働】

公益社団法人シルバー人材センターが、高齢者の生きがいをづくり、就業機会の確保といった高齢者福祉を目的として農業分野に参入することで、農業活性化、耕作放棄地の解消など、問題解決の一翼を担う。

行政は、シルバー人材センターと連携して、農作物の地産地消に向けた取り組みや6次産業化・ブランド化に向けた検討に関わり、推進力を高める。PR活動についても積極的に展開する。

【政策間連携】

シルバー人材センターが農業参入することにより、高齢者の生きがいをづくり、雇用の創出、農業活性化、耕作放棄地への対策、若者の新規就農者支援など、複数の政策に対して波及効果がある。

【地域間連携】

連携協定を結ぶ岐阜県各務原市、兵庫県篠山市等の自治体の農作物に係る先進的な取組に係る情報交流等を図り、事業効果を高める。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)	KPI 増加分の累 計
農作物の収穫 量 (kg)	0kg	100kg	6,000kg	8,000kg	14,100kg
耕作・販売に 従事した会員 数 (人)	0 人	20 人	30 人	40 人	90 人
高齢農家への 支援件数 (件)	0 件	0 件	3 件	5 件	8 件
農作物の販売 額 (円)	0 円	0 円	11,775,000 円	15,637,200 円	27,412,200 円

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

総合戦略策定に際して設置した「いいね！犬山総合戦略推進会議の委員（学識経験者、関係団体の職員、住民代表等）及び市の最上位計画である犬山市総合計画の審議会委員を中心とした外部組織が、KPI の達成状況をもとに、PDCA サイクルに基づく効果検証を行う。

【外部組織の参画者】

いいね！いぬやま総合戦略推進会議委員（愛知大学教授 鈴木誠ほか）や犬山市総合計画審議会委員などで組織する予定。

【検証結果の公表の方法】

検証結果は、市公式ホームページにより公表を行う。

⑦ 交付対象事業に要する経費

総事業費 32,615 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日（3 ヶ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 高齢農家への農作業支援事業

事業概要：農作業に必要な技術・知識を習得したシルバー会員が、高齢農家の農作業の支援を行うもの。また、担い手となる若手就農者の育成を行うもの。

実施主体：（公社）犬山市シルバー人材センター、犬山市

事業期間：平成30年度～平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、外部組織において結果について評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。

目標1

「農作物の収穫量」については、シルバー人材センターが2月末に把握する。

目標2

「耕作・販売に従事した会員数」については、産業課が2月末時点でシルバー人材センターの勤怠管理簿冊により把握する。

目標3

「高齢農家への支援件数」については、産業課が2月末時点で把握する。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成 28 年度 増加分 (1 年目)	平成 29 年度 増加分 (2 年目)	平成 30 年度 増加分 (3 年目)
農作物の収穫量 (kg)	0kg	0kg	100kg	6,000kg
耕作・販売に従事 した会員数 (人)	0 人	0 人	20 人	30 人
高齢農家への支 援件数 (件)	0 件	0 件	0 件	3 件
農作物の販売額 (円)	0 円	0 円	0 円	11,775,000 円

	平成 31 年度 増加分 (4 年目)	平成 32 年度 増加分 (5 年目)	KPI 増加分の累計
農作物の収穫量 (kg)	8,000kg	9,600kg	23,700kg
耕作・販売に従事 した会員数 (人)	40 人	50 人	130 人
高齢農家への支 援件数 (件)	5 件	7 件	15 件
農作物の販売額 (円)	15,637,200 円	18,840,000 円	46,252,200 円

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、産業課が 2 月末時点で市公式ホームページにより公表を行う。